

「英語学」解答例

I. (配点：60点)

出題意図：英文からの情報を理解し、同量の情報を日本語で表現することができる能力をはかる。

解答例：(英文の意図と同量の情報を伝達する日本文であれば、それに応じて得点)

- (1) 言い換えれば、この引用が最初に現れたのは、アインシュタインが、自分の理論がそれ以前に築き上げた成功をもとに、実験／観測が行われる前にその結果がどうなるかを自分は知っていると考えていた、という文脈においてであった。

- (2) それは既定の結論ではなかったが、彼は記者の誘導的な質問に応じて、まだ確定していない測定についての自らの物理的な直観を、「知識 (knowledge)」ではなく「想像 (imagination)」によるものだとみなした。

- (3) 少なくともこの特定の文脈では、アインシュタインが「想像 (imagination)」について話すとき、彼は、まだ調べられていないさまざまな物理的状況で何が起るかを想像する能力について話している。

II. (配点：20点)

出題意図：日本文からの情報を理解し、同量の情報を英語で表現することができる能力をはかる。

解答例：(日本文の意図と同量の情報を伝達できる英文であれば、それに応じて得点)

Moreover, studies have revealed that even in classroom settings, many aspects of the acquisition process appear to be quite similar. Teachers, teaching methods, and textbooks may differ. The order in which grammatical items are taught may also differ. Nevertheless, when learners' proficiency is compared after several years, the linguistic features that are difficult for some learners tend to be difficult for others as well. This fact is highly intriguing.

III. (配点：50点)

出題意図：言語学の専門書の英文を読んで、議論の流れを理解し、日本語で説明できる能力をはかる。

解答例：

問1 音と意味とを結びつけるシステム

「英語学」解答例

問2 言語能力が言語運用の基盤となっている関係

問3 言語間の差異には限りがあるということが分かる。

問4 (相当する内容が含まれていれば、それに応じて得点)

以下に示す子供の言語獲得上の事実が、子供が生まれながらに、人間言語を獲得し、使用するための遺伝的な能力を持っていることを示唆していると議論している。

- ・意図的な指導の必要がない
- ・接触したいかなる言語も獲得する
- ・非常に早い時期から、ある一定の段階を経て獲得する
- ・4-5歳になる頃には、ほぼ大人の文法の全体を身につける

問5 (相当する内容が含まれていれば、それに応じて得点)

基本的な言語の単位を組み合わせて、文法的に正しい文を無限に作り出せる能力のこと。それらの大部分は、新しく、これまでに一度も作られたり、聞かれたりしたことのない文である。

IV. (配点：20点)

出題意図：言語学の基礎分野の基礎能力をはかる。

解答例：

問1 (相当する内容が含まれていれば、それに応じて得点)

英語を母語とする子供は Yes-No 疑問文の形成において線形順序に依存する規則を用いていないこと。構造依存性の原理にもとづいていると考えられること。

問2 (1) b (2) c (3) d (4) a (5) c

問3 (1) c (2) a (3) d (4) e (5) b

V. (配点：50点)

出題意図：言語学の基礎分野の専門用語に関する知識をはかる。

解答例：(相当する内容が含まれていれば、それに応じて得点)

(1) allophone(s)

物理的には異なる音として発話されるが、同じ音として認識される音のバリエーションのこと。例えば、pit という単語の最初の音には aspiration が含まれるが、spit という単語の2つ目

「英語学」解答例

の音には含まれない。この2つの音は物理的には異なるが、認識上は同じ /p/ という音として認識されるため、/p/ という音素の allophones (異音) と言える。

(2) A-movement vs. A'-movement

A 移動とは項位置への移動のこと (T の指定部への移動など)。A' 移動とは項位置以外への移動のこと (wh 移動など)。

(3) approximant vs. lateral approximant

Approximant (接近音) とは、空気が通る隙間を舌の中央部分に作ることで調音される音のこと (/ɹ/ など) で、lateral approximant (側面接近音) は、空気が通る隙間を舌の側面 (両側) に作ることで調音される音のこと (/l/ など)。

(4) assimilation

ある音が隣接する音の影響を受けて、その特徴の一部を変化させる現象のこと。例えば、boom のように鼻音を含む単語を発音する時、鼻音の直前の母音が鼻音化する。

(5) center embedding

ある節 (句) を別の節 (句) の中央に入れ子状に埋め込む統語構造。

(6) complementizer(s)

節を補部としてとる機能範疇の主要部 (Comp) それ自体、もしくは主要部 C の具現化として現れる特定の文要素 (英語の that や for など)。

(7) compositionality

文の意味は、その文を構成する要素の意味と、それらを結合する規則で決まるという原理。

(8) constituency

統語構造で、語が構成素というまとまりを作り、一つの統語単位として振る舞う性質。

(9) Double Object Construction(s)

John gave Mary a ring. のように、2つの目的語を持つ3項動詞が作る構文。典型的には、その間接目的語は直接目的語の所有者・受益者として解釈される。

(10) implicature

発話文の文字通りの意味とは異なり、文脈や会話原理にもとづく推論で導かれる意味。

「英語学」解答例

(11) negative evidence

ある言語の形式が目標言語において許されない（非文法的である）ことを示す証拠のこと。

(12) reflexive(s)

照応形代名詞の一つ，再帰代名詞。英語では，**himself** や **herself** などのことを言い，束縛条件（A）に従うとされる。

(13) structural ambiguity

同一の語順に対して，統語構造の可能性が複数存在すること。

(14) Subject Auxiliary Inversion

英語の疑問文などで，主語を越えて，助動詞が前置する現象および操作のこと。

(15) Weak Cross Over effect(s)

(i)に示す wh 移動などの A'移動において，wh 句(who_i)が，それと同一指標を持つ代名詞 (his_i) を越えて前置された際に，その代名詞を束縛代名詞として解釈することが困難になる現象のこと。その代名詞が，それを束縛する wh 句の痕跡(t_i)を c-統御していない場合を弱交差といい，その際の文法性の低下を弱交差効果という。

(i) $*?Who_i$ does his_i mother like t_i ?

